

税理士法人サム・ライズ
料金後納郵便
お客様と共に 走り続けるパートナー
ゆうメール

ご縁をいただいた、あなたにお届けする……

# おしどり通信



こんにちは！

今回は母について書きたいと思います。

一部の人にしかお伝えしておりませんでしたが、実は3月3日に母が亡くなりました。20年以上前になりますが、母はパーキンソン病と診断され、それからずっとまさに「鬪病」してきました。最期は入院先で容態が急変し医者も驚くほど急に、実家にいる父や兄が駆けつける間も無く、あっけなく旅立ってしまいました。覚悟をしていなかつた訳ではないのですが、あまりに急すぎて、正直言うと葬儀が終わってもしばらくは受け入れられていませんでした。けれど、先日49日を迎えた日の夜、母が私に会いに来て、母にこれまでの感謝を伝え、これからも一生懸命生きていくと誓いました。そんな母とのことを今回書かせていただきますね。



## 母のこと

私の実家は三重県の御浜町という小さな町で写真屋をやっていました。両親ともにとても働き者で、父は昼間はコンクリートミキサー車の運転手として働き夜は写真を焼いたり街の懐メロ大会の写真を撮ったりという仕事をしていました。そして、母は写真屋の店番をしながら、婦人服の仕立てをする仕事をしていました。なので、母はよく私たち(3人きょうだいです)にお揃いの服を作ってくれました。

母は、決して運動神経が良かった訳ではありませんが、若い時からチャレンジ精神旺盛でママさんバレーのチームに入ったり、父の影響でゴルフを始めたり、朝ジョギングを始めてみたり、と勧められると何でもやってみる人でした。私もよ



く「人にできて自分に出来んことなんかない。同じ人間なんやから」と言われてましたが、その言葉を自分自身が地で行く人でしたね。

パーキンソン病になった後も、誘われて太極拳を始めたり大正琴を習ったり・・・。何よりも「脳深部刺激療法」というパーキンソン病の手術療法に70歳を過ぎてチャレンジしたことが人生最大のチャレンジだったと自分でも言っていました。



また、実家の写真店のお客様たちに誘われて写真同好会に入ったり、写真屋の妻たちでいく旅行を企画したり、仲良しの友人たちと食事に行ったり旅行に行ったりと、人からとても好かれる人でした。今から思えば、写真屋の番頭と婦人服の仕立ての仕事をしながらも多趣味で、「よくやつてたなあ」と感心します。夜も良く出かけて行っては帰ってきてから夜中の2時3時まで仕事をしていました。

何だか、こう書いてみると、つくづく私は母に似ています(笑)。母も「亞由美と私は一卵性親子なもので・・・」なんて、よく周りに話していました。なので母は私が休みもなく仕事をしているととても心配しました。私はパーキンソン病と闘う母の姿を、「働きすぎたらあかんよ」という母のメッセージだと受け止めていました。

母は今思えばとても仕事のできる人だったのだと思思います。仕立ての腕が良かったので、母の職場にはいつも依頼を受けた服地が山積みになっていましたし、多い時には3人ほどのお弟子さんを持っていました。特に毎年春になると女子の制服の依頼が多く、毎晩遅くまで夜なべをしていました姿を思い出します。小学生の頃は、宿題の音読も算数の宿題も、母が仕事をする横で母の仕事机で教えてもらいました。こうして書いていてもあの時のアイロンの匂いがよみがえります。



亡くなる3年くらい前から、実家に帰る度に母は私を2階の衣装部屋に連れて行きました。そこで、自分が若い時に買った真珠のネックレスや着物などを私に持たせたがりました。私はそれが何とも寂しく、「いいよ、また欲しくなったらもらうから」とごまかしていました。

また、ほぼ自宅で寝たきりになっていたある時、私と兄を自分のところに呼んで財布からお金出し、「これで恭星（兄の長男）と賢史朗（うちの息子）に成人式の背広を作ってあげて」と言ってきました。当時、恭星も賢史朗もまだ高校生だったので、いよいよ母がボケたのだと思い、「お母さん、ありがとう。わかったよ。でもまだ先やから、その時になったらあげてね。」と言って受け取ってあげませんでした。でも、今ならわかります。いつも先のことまで段取りをつける母は、自分がしっかりしているうちに私に自分が大切にしてきた物をあげたかったんだな、と。



また、二人の成人式の時に自分が背広を作つてあげられない、とわかっていたのだな、と。

言葉にするととてもちっぽけなものになってしまうけど、親の愛は子供の想像をはるかに超えるものですね。母がどれだけ私たちのことを思つてくれていたのかを考えると、もっとたくさんの優しい言葉をかけてあげたかった、感謝を伝えたかったと、後悔します。私がこうして今幸せに暮らしていることも、大好きな事ができることも、たくさんの大好きな友人たちに囲まれていられることも、全部父と母が守り育てくれたおかげです。そして母は今も私の中に生きています。お母さんの娘に生まれてきて本当に幸せです。ありがとう。

一日一生、受け継いだ命に感謝して、これからもしっかりと生きて行きます。



## 「おかあさん、ありがとう」

☆おしどり通信は、林公士郎・亜由美がご縁をいただいた方に毎月お届けしています。ご意見ご感想などお寄せいただければ幸いです☆

発行元：税理士法人サム・ライズ

〒350-1123 埼玉県川越市脇田本町 11-1 川越シティビル 7F TEL : 049-249-0222 FAX : 049-249-0220

e-mail : ayumi-hayashi@some-rize.net URL : <http://www.some-rize.jp> 発行編集責任者：林 亜由美